

1 米沢市版 DMO 設立及び推進事業

(1) 計画概要

米沢市版 DMO を設立し「観光データベースのマネジメント」及び「マーケティング、プロモーションを中心とした観光事業の DX 化」を推進し、データを根拠とする「稼ぐ力」を創出し、持続可能な観光地域づくりを目指すもの。

(2) 実施状況（令和 5 年度実施のうち主なもの）

- 道の駅米沢、道の駅ふくしま、上杉城史苑に車両ナンバープレート認識カメラを設置し、来訪車両数、車両の回遊率、来訪者の出発地域などを分析
- 観光施策立案に必要なマクロデータ（人口統計、経済指標、観光客の流れの傾向などの広範囲なデータ）とミクロデータ（イベントのアンケート回答、SNS のフィードバック、宿泊施設のレビューなど、特定の事例やイベントに関連する詳細なデータ）を整備
- 広域観光 POI 共有 DB の造成とプロモーション用素材製作を含む観光情報データの整備
- 各観光地の目標市場分析、ブランド戦略の立案と管理、プロモーション活動の計画と実施、マーケティング戦略の評価と改善

(3) 効果検証

① KPI（重要業績評価指標）

ア 観光消費額（千円）

年度	2022 (R4.4) 基準値	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)
実数	14,540,000	17,430,000	17,963,000	—	—	—
目標値		15,158,000	15,928,000	16,702,000	17,525,000	18,378,000

イ 地域アプリのアクティブユーザー数（人）

年度	2022 (R4.4) 基準値	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)
実数	0	0	0	—	—	—
目標値		10,000	22,000	46,000	61,000	73,000

ウ 観光情報サイトの PV 数（PV）

年度	2022 (R4.4) 基準値	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)
実数	0	135,000	495,000	—	—	—
目標値		300,000	660,000	1,020,000	1,380,000	1,740,000

② 検証

- コロナ 5 類移行に伴い、国内旅行とインバウンド需要が回復したことから、観光消費額は目標値を大きく上回った。
- 地域アプリは当初予定していた新規アプリについて開発の有無を検討しているため実績はゼロとなった。
- 観光情報サイトの PV 数は順調に伸びているが、開発に時間がかかったことで事業開始が遅れたため、目標値を達成することはできなかった。

(4) 今後の方向性

- データの活用を推進するため、観光事業者や来訪者へのアンケート調査からニーズや満足度、行動パターン等の質的データを収集するほか、人流・車両データと宿泊や消費等各種統計データを組み合わせた多角的な分析を行い、分析結果を踏まえた域内の回遊性向上につながる施策を立案・実施する。
- 収集データを利用した効果的な観光施策立案に向けた体制やプロセスを整備する。
- 広域共有 DB の活用を促進し、地域関係者による情報入力と更新を継続的に行うほか、地域との連携を強化し、広域観光ルートの開発を進める。
- SNS やデジタルプラットフォームを活用した効果的な情報発信に向け、写真や動画コンテンツの継続的な制作・発信と、多言語対応を含むインバウンド観光客向けコンテンツを充実させる。

(5) 事業一覧

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）活用事業（円）

	事業名 (事業主体)	事業概要・実績	総事業費 (うち交付金)
1	観光デジタルトランスフォーメーション事業 (米沢観光推進機構)	● 観光情報集約プラットフォーム事業 ・人流分析用車両データ収集業務 ・金流分析用クーポンデータ収集業務 ・イベントにおけるアナログデータ収集業務 ・宿泊データ収集業務 ・BI ツール開発業務 ● 相互送客プラットフォーム事業 ・域内回遊促進業務 ● 観光情報サイト・地域アプリ開発運用事業 ・観光情報データ整備業務 ・地域プロモーション（国内）業務 ・地域プロモーション（国外）業務 ● 観光情報分析 ・マーケティング分析業務	35,000,000 (17,500,000)
2	地域商社事業 (米沢観光推進機構)	● 地域資源の磨き上げ・商品づくり等事業 ・ECを活用した商品販売強化業務 ・探究型学習×地域発意型旅行商品造成業務	9,375,747 (4,687,873)
3	事務局運営 (米沢観光推進機構)	● 事務費 ・人権費、その他経費（運営経費）	29,000,000 (14,500,000)
4	地域の魅力磨き上げ事業 (米沢観光推進機構)	● 米沢版インバウンド事業 ● 広域観光推進事業 ● 食文化アルカディア米沢創造事業 ・食による観光振興に関するアクションプラン策定業務 ・ガストロノミーツーリズム米沢食文化体験ツアー事業 ● 米沢の歴史文化と SDGs 事業 ・米織プロジェクト事業 ・紅花プロジェクト事業 ・草木塔プロジェクト事業	29,552,315 (14,776,157)
5	地域商社事業 (米沢市)	● 地域資源の磨き上げ・商品づくり等事業 ● 横浜市でのプロモーション事業	3,367,893 (1,683,946)
合計			106,295,955 (53,147,976)

2 西吾妻山×天元台高原×白布温泉エリア リボーンプロジェクト

(1) 計画概要

西吾妻山・天元台高原・白布温泉エリアを一体として捉え、次世代に残せる魅力溢れるエリアに再生するため、地域外の活力と地元及び関係機関が一体となってハード・ソフトの両面から持続可能な再生事業に取り組むもの。

(2) 実施状況（令和5年度実施のうち主なもの）

- PR TIMES を利用したプレスリリースの実施に加え、著名プロスノーボーダーによるデモ滑走等のプロモーション活動を展開し、エリア全体の知名度の向上及び集客を図った。
- 天元台高原の自然環境を生かしたイベントとして、エリア内の各事業者が連携し、トレイルランニング大会や「手ぶらでキャンプ事業」を実施し、誘客拡大を図った。
- 天元台高原スキー場の冬季誘客イベント（天元台アップデート）や、パノラマ遊覧用圧雪車キャビンを活用したツアーを実施した。
- 温泉街沿道に大幟り等を設置したほか、温泉街中心部にある案内板の板面について、大幟り等と意匠を合わせて更新し、エリアとして統一感のある景観整備を行った。
- 南原・関地区等と連携し「ミナミハラアートウォーク」を開催し、芸術・工芸品を通じた誘客及び関係・交流人口の拡大を図った。
- 温泉街エリアの中心に、交流・賑わい創出のため、湯車周辺の敷地を活用した拠点スペース「やまの湯けむり広場」の整備を行った。

(3) 効果検証

① KPI（重要業績評価指標）

ア 天元台高原来台者数（ロープウェイ利用者）（人）

年度	2019 基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
実数	55,000	42,451	42,692	45,849	52,453	—
目標値		56,000	58,000	60,000	62,500	65,000

イ 天元台×白布温泉街のエリア一帯を回遊した入込客数（人）

年度	2019 基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
実数	0	1,203	1,203	1,900	2,124	—
目標値		500	1,000	1,500	2,000	2,500

ウ 西吾妻山一帯におけるトレッキング等の入込客数（人）

年度	2019 基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
実数	8,200	9,096	8,031	9,622	9,669	—
目標値		8,500	8,750	9,000	9,250	9,500

エ 白布温泉宿の入湯税額（円）

年度	2019 基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
実数	3,515,550	2,176,050	2,848,800	2,644,275	2,175,000	—
目標値		3,600,000	3,700,000	3,800,000	3,900,000	4,000,000

② 検証

- 天元台高原来台者数は、各種イベント等の誘客効果や全国的な少雪状況を受け、前年度から大幅に増加したものの、グリーンシーズンにおける天候不順や紅葉の遅れ等に伴う来場者の減少が影響し、目標値を下回った。
- エリア一体を回遊した入込客数は、各種イベント開催時に、天元台高原と温泉旅館等が連携した割引券の発行等の効果により、目標値を上回った。
- トレッキング等の入込客数は、県外からの日帰りトレッキングツアー等の参加者に加え、スノーシーズンにおける樹氷鑑賞等を目的とした登山客も増加し、目標値を上回った。
- 入湯税額は、主要温泉旅館の1つが、設備メンテナンスに伴い長期休館したことなどの影響を受け、目標値を大きく下回った。

(4) 今後の方向性

- 引き続きウェブサイトや SNS 等を活用した効果的な情報発信を行っていくとともに、各事業のターゲットを明確にした PR 活動に取り組むことにより、リピーターや関係・交流人口の増加につなげていく。
- 令和7年度の自走化に向けて、これまで利用者の多かった「手ぶらでキャンプ事業」や圧雪車キャビンを活用したスノーアクティビティ等を軸とし、さらなる誘客に結び付けていくことで自主財源の確保を図る。
- 天元台と各温泉旅館等が連携したプランの造成など、エリア一体の誘客事業を展開していくとともに、米沢市版DMOや小野川温泉等の関係団体等とも連携を深めていくことにより、観光客の市内周遊・滞在を促進させ、地域経済の活性化へ繋げていく。

(5) 事業一覧

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）活用事業（円）

	事業名 (事業主体)	事業概要・実績	総事業費 (うち交付金)
1	広告宣伝プロモーション事業 (天元台×白布リボン協議会)	● 広告宣伝プロモーション ● リボンプロジェクト運営支援業務	11,799,998 (5,899,999)
2	誘客事業 (天元台×白布リボン協議会)	● 電動アクティブレンタサイクル(リース代等) ● 特別催事事業 ● 健康長寿推進事業 ● 囲碁アマチュア戦(天元カップ) ● ハード事業維持・管理費	17,131,970 (8,565,985)
3	景観形成事業 (天元台×白布リボン協議会)	● 大幟り等制作費	987,250 (493,625)
4	人材育成事業 (天元台×白布リボン協議会)	● 人材養成及び情報発信費	1,000,000 (500,000)
5	事務費 (天元台×白布リボン協議会)	● 事務費(事務局職員給与、事務所賃借料、光熱水費、事務用品リース料、消耗品費等)	10,110,454 (5,055,227)
6	拠点整備事業 (天元台×白布リボン協議会)	● 交流拠点スペース整備(工事) ● 自然体験施設(遊歩道)整備(設計)	19,998,000 (9,999,000)
7	事務費 (観光課)	● 損害保険料	10,440 (5,000)
合計			61,038,112 (30,518,836)

3 精密加工技術を核とした米沢ものづくりプロモーション事業

(1) 計画概要

精密加工技術を有する企業が数多く立地する強みを活かし、今後の地域経済を牽引する企業を創出し、製造業の付加価値向上への相乗効果を生み出していくため、市内の産学官金で組織する「米沢ものづくり振興協議会」が実施主体となり、市内企業の販路開拓支援や人材育成支援等を実施するもの。

(2) 実施状況（令和5年度実施のうち主なもの）

- 「国内販路開拓事業」として、市内企業延べ12社とともに都内で開催の大規模展示会に出展を行い、計9件の新規受発注機会を獲得したほか、県外で開催の商談会に参加するなど新規受発注機会の獲得に努めた。
- 「海外販路開拓事業」として、市内企業12社とともにドイツ連邦共和国ザクセン州及び関連地域との地域間交流を通じた販路開拓に取り組んでおり、前年度から継続支援する商談案件に関して、市内企業2社が2件の受発注獲得に至った。
- 令和2年度から取り組んでいる「ものづくりビジネスサポート事業」として、販路開拓支援員を任用することにより、市内企業の強みや保有する技術に最適な企業マッチングを行うとともに、商談成約やその後の受注拡大に向けた継続的なフォローアップを行う体制を構築していく。これにより、市内企業は91件の新規受発注の獲得に至った。
- 「ものづくり産業人材の育成・確保」として、精密加工企業向けの各種講座等を開講し、延べ309人が受講した。

(3) 効果検証

① KPI（重要業績評価指標）

ア 国内及び海外での各種ビジネスマッチング支援事業での商談成約件数（件）

年度	2018 基準値	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
実数	4	7	34	52	74	93
目標値		10	22	40	61	85

イ 各種ビジネスマッチング支援事業で商談成約した取引から派生する地域内企業への受発注及び開発連携の件数（件）

年度	2018 基準値	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
実数	1	2	2	2	2	2
目標値		3	8	15	24	35

ウ ものづくり人材育成に係るセミナー・講座の受講者数（人）

年度	2018 基準値	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
実数	100	216	122	276	610	309
目標値		110	130	160	200	250

② 検証

- 国内外における商談成約件数は、販路開拓支援員を配置した令和2年度以降、企業ニーズに沿ったきめ細かな企業マッチング支援を行い、毎年度目標値を上回る結果となった。
- 取引から派生する地域内受発注及び開発連携件数は、取引に含まれる企業経営上の機密情報の取扱いが難しく、他企業に公開可能な情報が限られたことから、成約に繋げることができず目標値を大きく下回った。
- セミナー・講座の受講者数は、実会場とオンラインを併用し開催するとともに、企業ニーズに沿ったテーマを設定するなど受講者の獲得に努め、目標値を上回る結果となった。

(4) 今後の方向性

- 国庫交付金の事業計画期間が終了した令和6年度以降は、本市および商工会議所の負担金や県補助金、企業負担金等を財源として事業の継続を図ることとし、引き続き変化の著しい国内外の経済情勢の動向を注視しつつ、販路開拓支援事業と人材育成事業に取り組み、本市ものづくり産業の一層の発展を目指し、積極的に事業を展開していく。

(5) 事業一覧

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）活用事業（円）

	事業名 (事業主体)	事業概要・実績	総事業費 (うち交付金)
1	地域ものづくり企業の 販路開拓支援事業 (米沢ものづくり振興協議会) ものづくりビジネスサポ ート事業 (米沢ものづくり振興協議会)	● 国内販路開拓事業 ○機械要素技術展及び高精度・難加工技術展 共同出展等、販路開拓支援 ● 海外販路開拓事業 ○ドイツ及び関連地域における販路開拓 ● ものづくりビジネスサポート事業 ○販路開拓支援員による企業支援	17,125,997 (7,371,000)
2	ものづくり産業人材の 育成・確保 (米沢ものづくり振興協議会)	● 各種スキルアップセミナー・講座の開講 ○米沢地域共通鉛フリーはんだ付け技術・認 定講座 ○精密加工企業向け基礎技術講座 ・人材不足解消の最強戦略セミナー ・今さら聞けないDXセミナー ○山形大学研究シーズセミナー ・今だから知りたい！まるごとAIセミナー ○米沢市産学交流会 企業講演	1,205,128 (500,000)
3	その他 (米沢ものづくり振興協議会)	● その他事務費等	41,530 (0)
合 計			20,904,170 (8,621,000)

4 廃校校舎のリノベーションによる芸術文化を核とした地域活性化事業

(1) 計画概要

旧南原中学校（H31.3 閉校）の一部を活用し、特色ある地域づくりを推進するため、芸術作品等の創作活動を行うレンタルスペースとして使用できるよう施設設備等の改修を行った。令和3年度からは、以下の目的に沿った事業を行っている。

- ① 様々な芸術家等を本市に呼び込み、交流人口や関係人口の増加を図るなど、芸術文化活動を切り口にした地域活性化を目指す。
- ② 南原地区を中心に本市の新たな芸術文化の発信拠点の形成を目指し、本市の芸術文化の新たな展開を促す。
- ③ 若手芸術家の育成とともに芸術文化活動の活性化を図る。

(2) 実施状況（令和5年度実施のうち主なもの）

- 芸術創作活動施設の名称で運用を開始した。令和3年6月から、本市に縁のある日本画家福王寺一彦氏が本市での創作活動拠点として利用を始め、令和5年度は世界遺産高野山金剛峰寺に奉納する襖絵等を制作し、よねざわ市民ギャラリーで展示を行った。また、新しく建設された病院に寄贈する絵画を制作した。
- 令和3年7月芸術の杜事業実行委員会を発足し事業を開始した。青年会議所主催事業ミナミハラアートウォークへの共催により、福王寺氏関連作品を展示した。
- 令和5年10月に親子を対象としたワークショップを実施した。

(3) 効果検証

① KPI（重要業績評価指標）

ア （仮称）アートステーションにおける年間創作作品発表数（点）

年度	2019 基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
実数	0	0	0	0	10	—
目標値		0	5	15	35	60

イ ワークショップ実施回数（回）

年度	2019 基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
実数	0	0	0	1	1	—
目標値		0	6	24	48	48

ウ 南原コミュニティセンター年間利用者数（人）

年度	2019 基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
実数	14,971	5,152	6,560	10,765	16,814	—
目標値		14,971	15,971	17,971	18,471	18,971

② 検証

- 芸術の杜事業として小学生親子向けワークショップを開催しているが、実施回数は当初目標値を大きく下回っている。
- ミナミハラアートウォーク事業により、南原地区内で活動している芸術家、作家の方を活動内容と共に周知したことで、地区民の意識の変化が感じられた。
- 職員が常駐した施設でないことから、冬期間の施設管理や利便性の向上が課題となった。

(4) 今後の方向性

- 福王寺一彦氏が本市において制作している襖絵をはじめとした作品を展示し、市民が芸術文化に触れる機会を拡充していく。
- ミナミハラアートウォークの継続維持のため今後も共催事業としていく。
- 令和4年4月に、隣接地に南原コミュニティセンターが開館したことで、新たな事業の実施及びコミセン事業との協力体制の構築を目指す。

(5) 事業一覧

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）活用事業（円）

	事業名 (事業主体)	事業概要・実績	総事業費 (うち交付金)
1	芸術の杜事業 (芸術の杜事業実行委員会)	● 芸術の杜事業実行委員会負担金 ・ よねざわ市民ギャラリー事業への共催 ・ 青年会議所主催事業への共催 ・ 親子参加型ワークショップの開催	500,000 (0)